

楽しい科学NPO法人の運営

柴田 晋平*

2022年8月9日



挿絵絵：福島茂良
NPO 法人小さな天文学者の会の
設立を記念して描いていただいた
ものです。当時、「やまがた天文
台」設立に向けて奮闘中でした。

*NPO 法人小さな天文学者の会

ショートトピック

おやすみグループ

(おやすみグループ) 長い人生の中では、会社で大きな仕事を任された、赤ちゃんが産まれた、親などの介護をしなければならない、など様々な理由で数年の間、やりたい社会貢献などが出来ない時期というのがやってきます。それでも社会貢献団体/法人等に籍を置き、できるようになった時に再開できるような仕組みが必要と考えています。

小さな天文学者の会を20年近く運営してきましたが、5,6年姿を見せなかった方がお見えになって、やっと親の介護からも解放されまた星を見たくなりましたと会に復帰された方がおいででした。似たようなことは何回か経験しました。そんな時、再開には勇気が要るのだと想像します。なので、何もしないという「おやすみ」というグループ名(事業名)を準備しています。必要な時にはおやすみ事業を選んで、再開の機会を狙って下さい。期間は、疲れたからということで半年くらいでも、いつになるかわからない永遠でもお待ちしています。

(広い意味でのおやすみグループ:おやすみメンバー) 柴田の経験からおやすみメンバーの重要性について加筆します。

昔、高い建物(マンション)が近所に建設する計画があって、日照権の問題で地域の住民が大損害になりそうで建設反対運動したことがあります。山形のような雪国では重要な問題です。法律的には条

例で定めることになっている範囲の問題ですが、当時、山形県はサボっていきちっと条例が整備してない状態でした(他の自治体より遅れていた)。

義理もあってかたくさんの方が運動に参加して下さいました。運動の中で学んだことの一つは、ひとりひとりに得意なことというのがある、それ以外はお休みで良いということです。

普段の運動では全く何もしない人が居ました。当時無知だった私は「あの人がなんているんだろう」「何もしないんだったら、グループをやめればいいのか」と思っていました。

しかし、こういった運動にはいろいろな仕事があります。地道に各戸を回って説明する、チラシを作成する、市長との会見で発言する、担当する市役所の建築課の人と話す、家主と話す、結構激しい口論になるようやり取りもあれば極めて地道な仕事もあります。その何のためにいるかわからないと思った人が突然力を発揮する場面に出会ってしまったのです。その時思ったのですが、組織の中には何もしないでいるだけというメンバーがいっぱいてもその方がいいのだということでした。必ず、人それぞれの出番があるということです。出番いがおやすみがいいのです。

それからは、グループの半分以上の人が「名前だけを連ねているだけで何もしない」というのは健全だと思うようになりました。

先に長期に参加できないおやすみグループを紹介しましたが、そうでなくて

も現役メンバーの中でも広い意味でのおやすみメンバがいることが重要になります。(席をおくだけでけしからん、などど決して思わないようお願いしたいと思っています。)

(追伸：) ちょっと関連してこういう場合もあるというのを追加します。

天文台には天文台にきた市民の皆さんに星空案内をするスタッフ「星空案内人」が居ます。天文台を開ける時間になると運営スタッフが集まり、星空案内をします。そんな時、スタッフとして天文台に来てくださるある方は何もしないのです。ただ、隅っこで座っているだけ。

長い間、疑問だったのですが、ある時お話が聞けました。天文台にお客さんが来て、案内人が星空案内をして、天文台が運営されているその様子を見ているだけで幸せを感じるのだそうです。

これもいいな、と思いました。天文台を運営する意味がこんなところにもあるのだなととても安心した気分になりました。

2022.8.9